

昭和55年度 和歌山県文化功労賞

いずみ
泉

まさお
真佐男

住 所：和歌山県和歌山市

出 身 地：和歌山県東牟婁郡那智勝浦町

生 年：大正12年

◎業績及び経歴

昭和17年陸軍戸山学校卒業後、軍楽隊員として中国で活躍、戦後昭和21年から東京放送管弦楽団に所属、同24年から宝塚歌劇管弦楽団の一員として活躍されていたが、昭和38年和歌山県警察音楽隊楽長に迎えられた。

警察音楽隊はもちろん、県下の吹奏楽のレベルアップに東奔西走され、特に第26回国民体育大会の式典音楽に多大の貢献をされた。

昭和38年県吹奏楽連盟発足と同時に顧問となり育成の中心的役割を果たし特に住友金属訓練生、和歌山市消防音楽隊、鼓笛連盟の指導にあたり、国民体育大会、第28回全国植樹祭を成功に導いた。

警察音楽隊は、当初警察業務と兼務であったが、昭和44年専務隊として演奏技術は格段の進歩を遂げ、この功労により和歌山県警察本部長賞詞を受けられた。

また、吹奏楽関係者の指導ばかりでなく、和歌山市内全小中学校をはじめ那賀郡、下津町等へも毎年巡回演奏しているほか、和歌山城内で毎夏「たそがれコンサート」を続けてきた。

編曲の主なものに「マリと殿様」「串本節」「和歌山県民歌」「県民スポーツの歌」などがあり親しまれている。

作曲には「葵の饗宴」「和歌山県警察寮歌」「和歌山県消防学校々歌」「奈良県警察歌」「箕島高校野球部応援歌」など多数あるが、そのほか民俗芸能、特に笛の採譜などを行い、祭ばやしの保存に尽力されるなど、音楽を通じ本県文化の振興に尽くされた。